

### 第3回 三豊市就学前教育・保育検討委員会 会議録

日 時	令和6年10月28日(月) 午後1時30分～午後3時
場 所	三豊市危機管理センター301・302会議室
出席者	<p>【三豊市就学前教育・保育検討委員会委員】7名 松井 剛太、常田 美穂、田井 清、松岡 瑞穂、藤田佐枝、山本 明代、白川朋果 (敬称略・順不同)</p> <p>【事務局関係職員】9名 健康福祉部 田中部長 保育幼稚園課 橋村課長、森GL、富田、石川、大平 教育委員会事務局 開口部長 学校教育課 内田課長、眞鍋</p>
欠 席 者	【三豊市就学前教育・保育検討委員会委員】3名(白川 久美子、野田 和也、藤根 直身)
傍 聴 者	0名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員長あいさつ</li> <li>2. 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 三豊市就学前教育・保育総合計画中間見直し〔骨子案〕について</li> </ol> </li> <li>3. その他</li> <li>4. 閉会</li> </ol>
<b>会 議 概 要</b>	
開 会	
事務局	<p>本日はご多忙の中、第3回三豊市就学前教育・保育検討委員会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。只今より会議を始めさせていただきます。出席委員数の報告をさせていただきます。</p> <p>本日の会議は、委員10名に対して7名のご出席をいただいております。三豊市就学前教育・保育検討委員会設置条例第6条第2項の規定により、会議が成立することをご報告させていただきます。</p> <p>なお、本日委員長の松井委員はリモートでのご出席となっております。初めに委員長の松井委員からあいさつをいただきます。</p>
1. 委員長あいさつ	
委員長	<p>&lt;あいさつ&gt;</p> <p>委員長の松井です。リモートで失礼いたします。今日の議題は骨子案ということで具体的な内容になると思います。それぞれの委員のお立場からご意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>

事務局	<p>&lt;議事録作成&gt;</p> <p>今回の会議に関しては、議事録を作成いたします。議事録については、「三豊市付属機関等の会議の公開に関する指針」第10条及び第11条の規定により、原則公開いたしますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>また、同指針第3条の規定により、付属機関等の会議は公開するものとなっております。傍聴者を募集したところ、希望はなかったことを併せてご報告いたします。では、議事に入らせていただきます。議事につきましては、三豊市就学前教育・保育検討委員会設置条例第5条の規定により、「委員長が会務を総理すること」とされていますので、ここからの進行は、松井委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
2.議事	
審議事項	
委員長	では議事に入らせていただきます。1.三豊市就学前教育・保育総合計画中間見直し〔骨子案〕についてお願いいたします。
事務局	<p>・〔骨子案〕第1章から第4章までについて説明 ここまでの説明で委員の意見を伺う。</p>
委員長	ただいま事務局より説明がありましたが、ご質問、ご意見等はございませんか。
A 委員	目次で第2章の部分で「5 幼稚園教育要領・保育指針の現状」は「5 幼稚園教育要領・保育指針等の現状」になると思うので修正してもらいたい。
事務局	修正する。
B 委員	P12 のグラフが上下で逆になっているので修正してもらいたい。
事務局	修正する。
委員長	第4章基本方針「1 子ども自身にとって最善の教育・保育を推進する」3行目からの内容に関して、「健全な親子関係を構築するための時間は減ってしまいます。」という文言は強い気がします。時間が短くても関わりの質が高ければ親子関係は構築できると思いますし、単純に関わりの時間が長ければ関係性を構築できるわけではないと考えます。この部分を変更すると良いのではないかと思います。家庭で親子が向き合う時間が減ってしまうというような表現でも良いかと思いました。
事務局	ご指摘いただいた内容について、修正する。

委員長	<p>他にはいかがでしょうか。</p> <p>なければ続けて説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5章及び別紙参考資料について説明</li> </ul> <p>これまでの内容について委員のご意見を伺う。</p>
B 委員	<p>参考資料は計画に掲載するのか。</p>
事務局	<p>その予定である。</p>
B 委員	<p>参考資料中で「公立幼保連携型認定こども園」とあるので、P26の本文中にも「公立」の文言を記載したほうが良いと考える。</p>
事務局	<p>修正する。</p>
委員長	<p>他に意見ありますか。なければ続いての説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6章から第7章について説明</li> </ul>
委員長	<p>これまでの説明も含め、ご意見があればお願いします。</p> <p>私からですが、P32の処遇改善の推進方策の部分について、この5年くらいで例えば「ノンコンタクトタイム」の確保などを幼児教育・保育現場で取り組まれている内容を記載できるのではないかと感じました。「同一労働同一賃金」という表現も合っていないと感じましたので、具体的に取り組まれていることを記載しても良いと考えます。あとP33の部分で、「令和の時代に」という表現がありますが、令和になって5年間経過しているので、この文言は不要だと感じました。</p>
事務局	<p>内容を確認し、修正する。</p>
委員長	<p>他にはいかがでしょうか。</p>
B 委員	<p>P26で「小学校に上がる際の教育・保育に関する連続性が保たれている」配置にということだが、閉園とか統合とかになると子どもたちが校区ではない区域に通うことがある。小学校との連携が大事になってくるので、もう少し具体的に、例えば交流を密にするといったことや、小学校教員とこども園の職員の連携を図るといった内容を記載してほしい。</p>
事務局	<p>現状の取り組み等を確認し、修正する。</p>

C 委員	<p>公立の幼保連携型認定こども園を旧町単位ごとに整備する将来構想が提示されたが、同じ区域でこどもたちが同じ保育を受けることができるということは重要だと考える。現在人数が少なくなっている幼稚園の集約は必要になると感じるが、公立幼稚園の重要な役割として、配慮が必要なこどもに対する支援といったニーズへの対応があると考えている。大規模な施設になると支援が必要なこどもや家庭に対するフォローが大変だが、そういった支援の部分が疎かにならないような体制づくりが重要。</p> <p>また、保護者のニーズが大事だが、幼稚園や保育所等の施設が「子育て」の部分を家庭からすべて引き受けてしまうのではなく、家庭での保育と就学前施設の教育・保育を両立も重要だと感じる。</p>
事務局	<p>計画の中で行政の保育と家庭での保育との線引きは非常に難しいところである。しかし、保護者のニーズとして考えると、就労状況が変化し、保育施設の利用者が増加している中で、この計画策定の目的は、今後の公立施設の配置についての方向性を示すものである。今回は骨子案を提示しているが具体的な部分については、委員のご意見をいただきながら進めていきたいと考えている。</p>
委員長	<p>他にはいかがでしょうか。</p>
D 委員	<p>公立幼保連携型認定こども園を整備する方向性だが、幼稚園の人数は本当に少なくなっている中で、こども園への移行は理解できる。支援が必要なこどもが増えている現状を感じている。こども園といった施設でこどもたちが生きやすい環境・場所を今後整備してほしい。</p>
E 委員	<p>将来通う校区以外の就学前施設を利用せざるを得ない状況の方がいるが、こどもたちが自身の校区にある就学前施設を利用できるよう整備して欲しい。また、保護者のニーズにすべて応えることは難しいが、保護者が息を抜けるような施設であったり、たまには土曜日一日預けることができる施設が増えることが必要だと感じる。</p>
F 委員	<p>公立幼保連携型認定こども園が整備された場合のクラス編成がどうなるのか。幼稚園卒なのか保育所卒なのか、お昼寝があるのかないのかといったこどもによって生活のスケジュールが違ってくる。こどもの目線でみると、14時でお迎えが来る子どもを見たときに自分も帰りたいたいと感じるこどももいると思う。一方で保護者としては幼保連携型認定こども園があったほうが良い。16時くらいに迎えに来る保護者は担任の先生とこどもの生活について聞くことができるが、18時30分に迎えに行くと当番の先生なので、昼間の様子を聞くことができない。けがをしたといった連絡はすぐ来るが、何気ない生活の情報を聞きたい。一方で、当番の先生は毎日変わるので、担任の先生以外の先生とふれあうことができるので、どんな先生とも</p>

	お話ができるようになる利点もあると感じる。
C 委員	質問だが、参考資料にある「過渡的形態」とはどういったものを想定しているのか。
事務局	最終目標として幼保連携型認定こども園を整備していくが、施設を整備するには時間を必要とする。そのため、複式学級を編成している施設など、適正規模を下回った場合に保護者と協議を開始する。そして、例えば近くの幼稚園や保育所を利用するのはどうかといった提案をし、合意を得ることができれば、施設の集約を行って、いうことを想定している。
B 委員	P20 の「子ども自身にとって最善の教育・保育を推進する」の文章に記載してほしい内容がある。行政の保育と家庭の保育という部分で、行政の保育が増えると家庭の保育が減るということではなく、家庭にとっては園につながるということ自体が子育て支援に繋がると思う。その中には特別なニーズを持っているお子さんを育てている家庭もあるので、そうなる少人数で公立の幼稚園のような形態で手厚い保育ができるというのも良いことだと思う。単純に適正規模化して人数だけそろえるのではなくそういったニーズに合わせた子育て支援の視点も入れていただきたい。
事務局	内容を検討し、修正する。
委員長	他にはいかがでしょうか。なければ事務局からありますでしょうか。
3. その他	
事務局	・次回の会議は 12 月 26 日(木)の 10 時から行いたいですが委員のみなさまのご都合はいかがか。
事務局	閉会にあたって、健康福祉部長の田中より、挨拶申し上げます。
(部長)	(あいさつ)
閉 会	
事務局	それでは、以上をもちまして、本日の委員会を終了させていただきます。本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。